



2023 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd.3-Rd.4 OTG Motorsports REPORT

6月3日-4日 (Rd.3-4)

天候：晴 コース：鈴鹿サーキット



FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP (FIA F4選手権)は、フォーミュラレースの入門カテゴリーとして2015年にシリーズが発足し、これまでに現役F1ドライバーの角田裕毅選手を始め多くのSUPER GTドライバーなどを輩出してきた。

このようにプロドライバーを目指す若手選手の登竜門となっているのがFIA F4選手権で、運営しているGTアソシエーションが「FIA-F4 JAPANESE CHALLENGE DRIVER」というスカラシップ制度も設けている。若手ドライバーの育成を目的としたこのプロジェクトに賛同する大阪トヨペットグループとダンロップが支援し、毎年一人の選手が同スカラシップを得ている。2020年から2022年まではコロナ禍でドライバーのオーディションが実施されなかったが、今季は3年ぶりにチャンレンジドライバーが選出された。

5代目のチャンレンジドライバーとなった野澤勇翔選手は2005年生まれで、昨年まで全日本カート選手権を主戦場としていた。同レースで優秀な成績を収めたことで、18歳以下だがJAFの限定ライセンスを付与されFIA F4選手権を戦うこととなった。

まだ、カート以外のレース経験がなくフォーミュラカーの走行回数も少ないため、FIA F4選手権の開幕戦となったゴールデンウィークの富士スピードウェイ大会では苦戦を強いられた。

迎えた第3戦、第4戦の鈴鹿サーキット大会は、6月3日(土)に予選と第3戦の決勝レース、4日(日)に第4戦の決勝レースを実施。レースウィークの走り出しとなったのは6月1日(木)のダンロップトレーニングで、走行経験の少ない野澤選手は少しでもマイルージを稼ぎたいところだった。だが、2回のトレーニングは赤旗などで走行時間が限られてしまい、3時間で計33周しか走行することができなかった。2日(金)にも1時間のOTGトレーニングが用意されていたが、朝から荒天となり走行はキャンセルとなってしまう。そのため2日間の公式練習では想定したメニューを消化できず、予選を迎えることとなる。

●予選 6月3日(土)

第3戦B組13位(総合25位) 第4戦B組13位(総合25位)



2日間の事前トレーニングでは思ったような走行ができなかったが、野澤選手はいくつかの課題を意識しながら予選に挑んだという。20分間で競われた予選は、コースオープンとともに全車がアタックに入る。野澤選手は3週のウォームアップを経て4周目からアタックを開始。まずは2分11秒台をマークし、6周目に2分10秒754を記録すると、さらにタイムを更新していくが他車のコースアウトによって赤旗が提示される。この赤旗により予選は中断し、残り4分で再開された。残されたアタックのチャンスは1周のみで、最後には2分10秒916のセカンドベストをマークするがタイムアップは果たせなかった。

結果としてベストタイムで競った第3戦は13位、セカンドベストによる第4戦も13位となった。今戦は予選が2組にわけられたため第3戦

●第3戦 6月3日(土)

スタート25位 フィニッシュ23位



本来なら第3戦の決勝レースは14時5分のスタートだったが、グリッドへの試走でコースにオイルが撒かれてしまい20分のディレイとなる。

レースはセーフティカー先導で3周目にスタート。野澤選手は1つポジションを上げて24番手となるが、4周目に多重クラッシュが発生して再びセーフティカーが導入される。レースは8周目にリスタートするが、FIA F4選手権の決勝レースは競技時間が30分と決められていて、本来ならば11周で競われるが9周目に全車がチェッカーを受けることとなった。

結果的にセーフティカーの先導がない状況でのレースは2周のみで、野澤選手は23位でフィニッシュした。

●第2戦 6月4日(日)

スタート25位 フィニッシュ25位



予選と第3戦の決勝レースから一夜が明けた4日に、第4戦の決勝レースが行われた。25番手からスタートした野澤選手は順調にスタートし、オープングラップをポジションキープで終えた。1周目からテールトゥノーズで先行するマシンを追うが、抜くことはできず4周目にクラッシュ車両が出たためにセーフティカーが導入される。3週のセーフティカーラン後の7周目にレースは再開される。8周目には自己ベストタイムの2分10秒655、翌周には2分10秒610とベストタイムを更新していくが先行するマシンをパスできず、11周目に25位でチェッカーを受けた。



野澤勇翔 選手

富士スピードウェイでの開幕戦後に鈴鹿サーキットで2回の事前テストをさせてもらいました。初戦でも感じていたのですが、コーナリングのボトムスピードを上げることやブレーキのリリース操作、荷重コントロールに課題があり、レースウィークでは改善できるように努めました。しかし、6月1日(木)の走行は赤旗が多く周回数を稼げず、2日(金)は雨で走行が中止となりました。そのため予選では課題を考えながら好タイムを残そうと思ったのですが、終盤の中断もあり満足いく結果となりませんでした。迎えた第3戦の決勝レースはほぼセーフティカーの先導だったためバトルができず、切り替えて第4戦に挑みました。レース中に抜くことはできませんでしたが、課題に対する挑戦や手応えはありレベルアップを果たせたと思います。次戦まで2月のインターバルがあるので、時間を無駄にすることなく、常にFIA F4選手権で結果を出すには何が重要なのか意識しながら過ごします。